2019/03/06

資料２

山県市

子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果

【概要】

平成 31 年 2 月

岐阜県 山県市

目　次

Ⅰ 調査実施の概要

1　調査の目的 3
2　調査の設計 3
（1）調査票の種類と調査の実施方法等
（2）調査票の配布・回収状況
3　グラフ等の見方について 4
（1）年齢・学年の定義
（2）電算処理の注意点
（3）設問の注意点
4　調査対象者の属性・家族状況 5
（1）就学前児童の属性
（2）小学生の属性
（3）居住地区の状況
（4）調査回答者の状況と配偶者有無

Ⅱ 子育て家庭を取り巻く環境

1　子育ての環境について 9
（1）主な保育者と親族等協力者の状況
2　主な保育者とその就労状況 10
（1）母親の就労状況
（2）父親の就労状況

Ⅲ 子ども・子育て支援事業の現状と今後のニーズ量

1　子ども・子育て支援事業の利用状況と利用希望 12
（1）平日の定期的な教育・保育事業の利用状況
2　地域の子ども・子育て支援事業の利用状況と利用希望 14
（1）地域子育て支援拠点事業の利用状況と利用希望
（2）子育て支援事業の認知・利用状況と今後の利用意向
（3）休日の教育・保育事業の利用意向
（4）病児・病後児保育について
（5）放課後の過ごし方の意向

Ⅰ 調査実施の概要

1　調査の目的

山県市では、「子ども・子育て支援新制度」（平成27年度から実施）の下で教育・保育・子育て支援の充実を図るため、子ども・子育て支援事業計画を作成し、計画的に給付・事業を実施しております。

本調査は、「第二期山県市子ども・子育て支援事業計画(2020年度～2024年度)」を策定するため、教育、保育、地域の子育て支援の「現在の利用状況」や「今後の利用希望」等を把握するために実施しました。

2　調査の設計

（1）調査票の種類と調査の実施方法等

調査対象者別の調査内容は以下のとおりです。

▶▷調査の実施方法

①ニーズ調査票（就学前児童用）	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
標本数	760　件
抽出方法	無作為抽出
調査方法	保育園を通じた配布・回収と、一部郵送による配布・回収
調査時期	平成 30 年 11 月 26 日～平成 30 年 12 月 7 日
②ニーズ調査票（小学生用）	
調査対象者	小学生を持つ保護者
標本数	876　件
抽出方法	無作為抽出
調査方法	小学校を通じた配布・回収
調査時期	平成 30 年 11 月 26 日～平成 30 年 12 月 7 日

（２）調査票の配布・回収状況

▶▷調査票の配布・回収状況

調査対象者	配布数	回収数	回収率
就学前児童の保護者	760 件	551 件	72.5%
小学生の保護者	876 件	785 件	89.6%

３　グラフ等の見方について

（１）年齢・学年の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、アンケート調査において生年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

▶▷アンケート調査における年齢・学年定義

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
０歳児	平成 30 年４月以降	７歳児	平成 23 年４月～平成 24 年３月
１歳児	平成 29 年４月～平成 30 年３月	８歳児	平成 22 年４月～平成 23 年３月
２歳児	平成 28 年４月～平成 29 年３月	９歳児	平成 21 年４月～平成 22 年３月
３歳児	平成 27 年４月～平成 28 年３月	10 歳児	平成 20 年４月～平成 21 年３月
４歳児	平成 26 年４月～平成 27 年３月	11 歳児	平成 19 年４月～平成 20 年３月
５歳児	平成 25 年４月～平成 26 年３月	12 歳児	平成 18 年４月～平成 19 年３月
６歳児	平成 24 年４月～平成 25 年３月		

※調査期間【平成 30 年度】における年齢定義

（２）電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第２位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

（３）設問の注意点

各設問内の（　）は、小学生の保護者用の設問番号になります。就学前児童の保護者用と設問内容が異なる場合に記載しています。

４　調査対象者の属性・家族状況

（１）就学前児童の属性

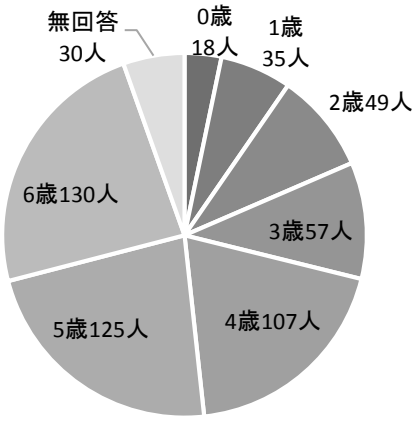
回答された551件の就学前児童の属性は、以下のとおりです。

問2　宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

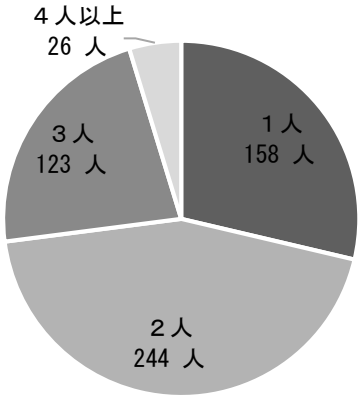
問3　宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。
※宛名のお子さんを含めた人数をご記入ください。
※お子さんが2人以上の場合は、末子の生年月をご記入ください。

問4　就学前のお子さんの祖父母とは同居されていますか。(すべてに〇)

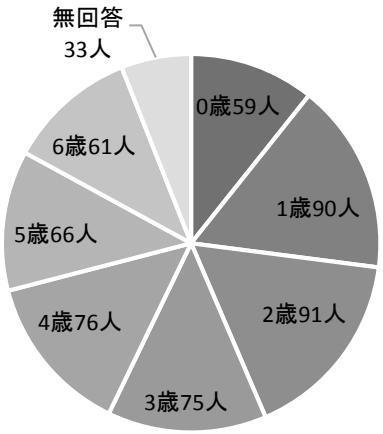
【子どもの年齢】



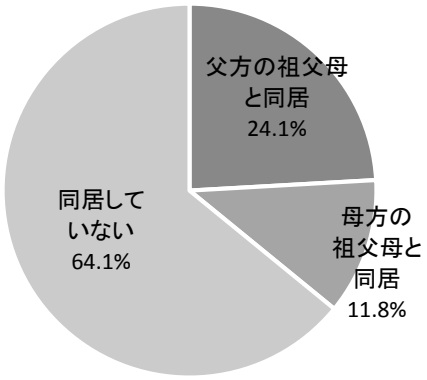
【子どもの人数】



【末子の年齢】



【祖父母との同居】



（２）小学生の属性

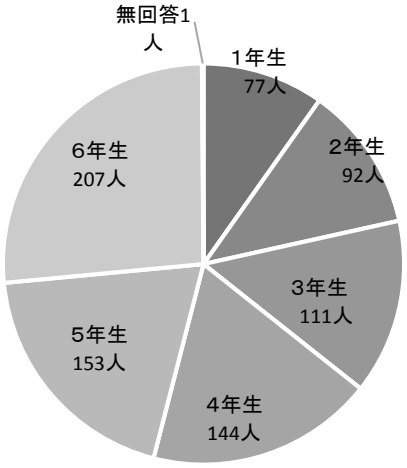
回答された785件の小学生の属性は、以下のとおりです。

（問2） 宛名のお子さんの学年はどれですか。（あてはまる番号1つに〇）

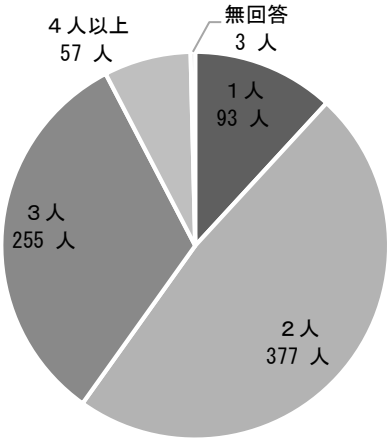
（問3） 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。
※宛名のお子さんを含めた人数をご記入ください。
※お子さんが2人以上の場合は、末子の生年月をご記入ください。

問4 就学前のお子さんの祖父母とは同居されていますか。（すべてに〇）

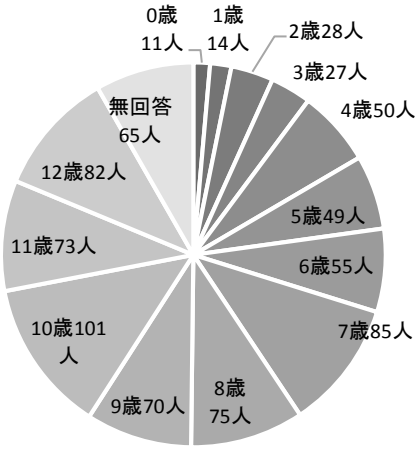
【子どもの学年】



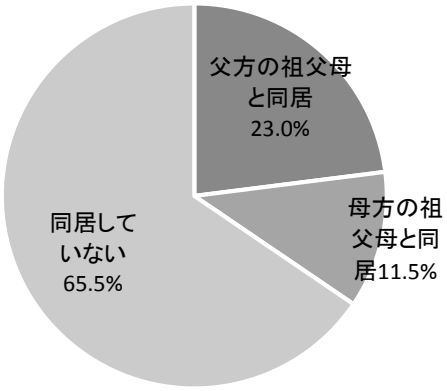
【子どもの人数】



【末子の年齢】

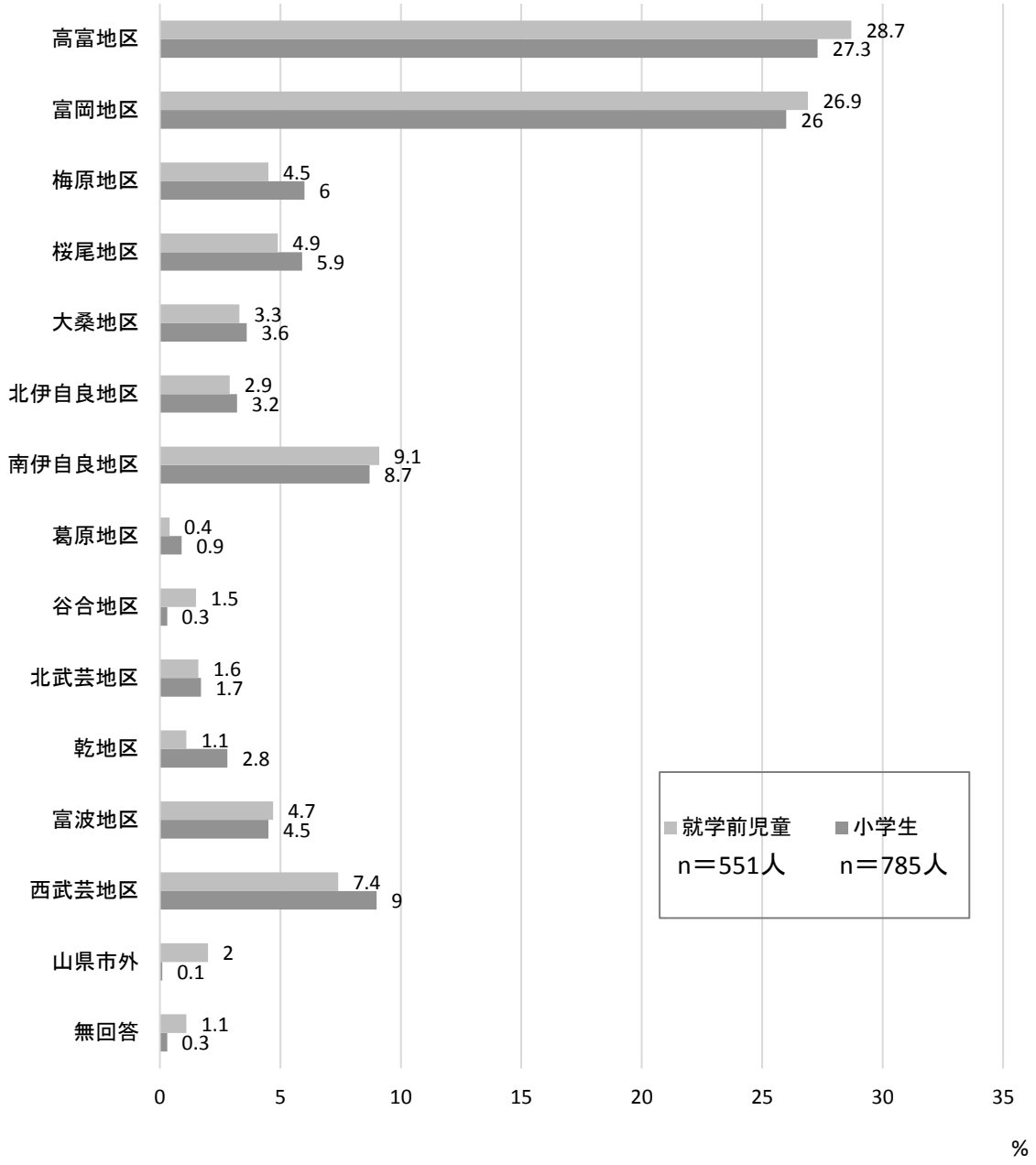


【祖父母との同居】



(3) 居住地区の状況

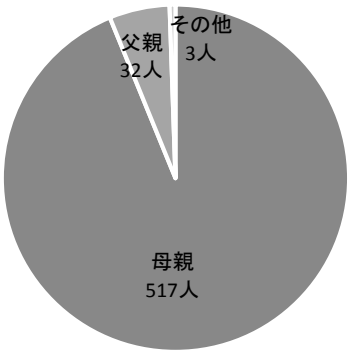
問1(問1) お住まいの地区はどこですか。



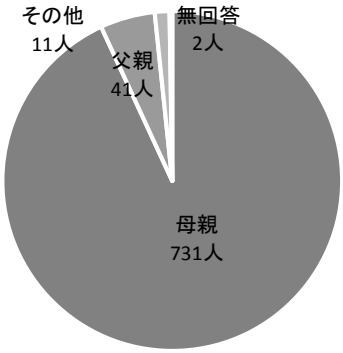
（４）調査回答者の状況と配偶者有無

問5（問5） この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。
（1つに〇）

【調査回答者（就学前児童）】



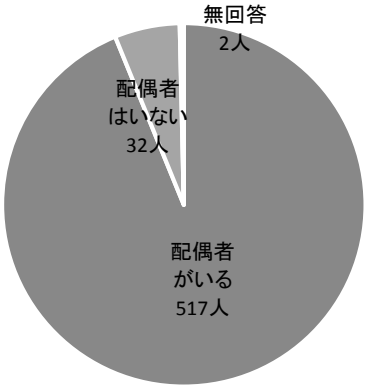
【調査回答者（小学生）】



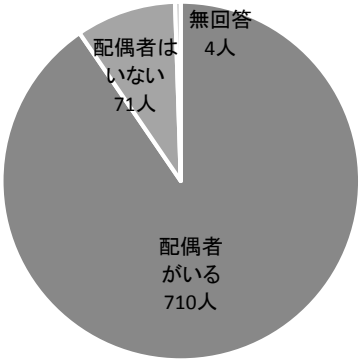
就学前児童 n＝551 人
小学生　　n＝785 人

問6（問6） この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。（1つに〇）

【調査回答者（就学前児童）】



【調査回答者（小学生）】



就学前児童 n＝551 人
小学生　　n＝785 人

Ⅱ　子育て家庭を取り巻く環境

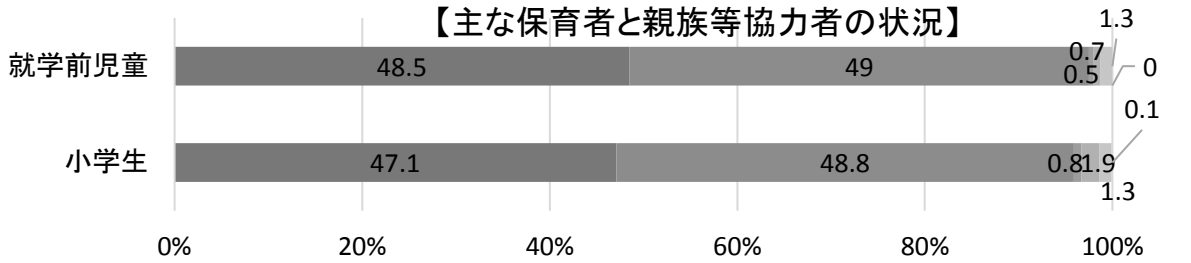
1　子育ての環境について

（1）主な保育者と親族等協力者の状況

就学前児童、小学生ともに「主に母親」「父母ともに」が二分している。

主に子育てを行っているのは、就学前児童では「主に母親」が 49%、「父母ともに」が 48.5%。小学生では「主に母親」が 48.8%、「父母ともに」が 47.1%、となっています。

問7（問7）　宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。
宛名のお子さんからみた関係でお答えください。（1つに○）

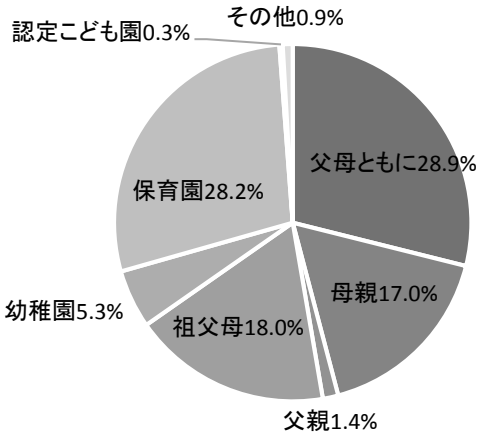


	小学生	就学前児童
父母ともに	47.1	48.5
主に母親	48.8	49
主に父親	0.8	0.5
主に祖父母	1.9	0.7
その他	1.3	1.3
無回答	0.1	0

就学前児童 n=551 人
小学生 n=785 人

問8　就学前のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっているのはどなた（施設）ですか。
お子さんからみた関係でお答えください。（すべてに○）

【子育てに日常的に関わる人・施設】(就学前児童)



２　主な保育者とその就労状況

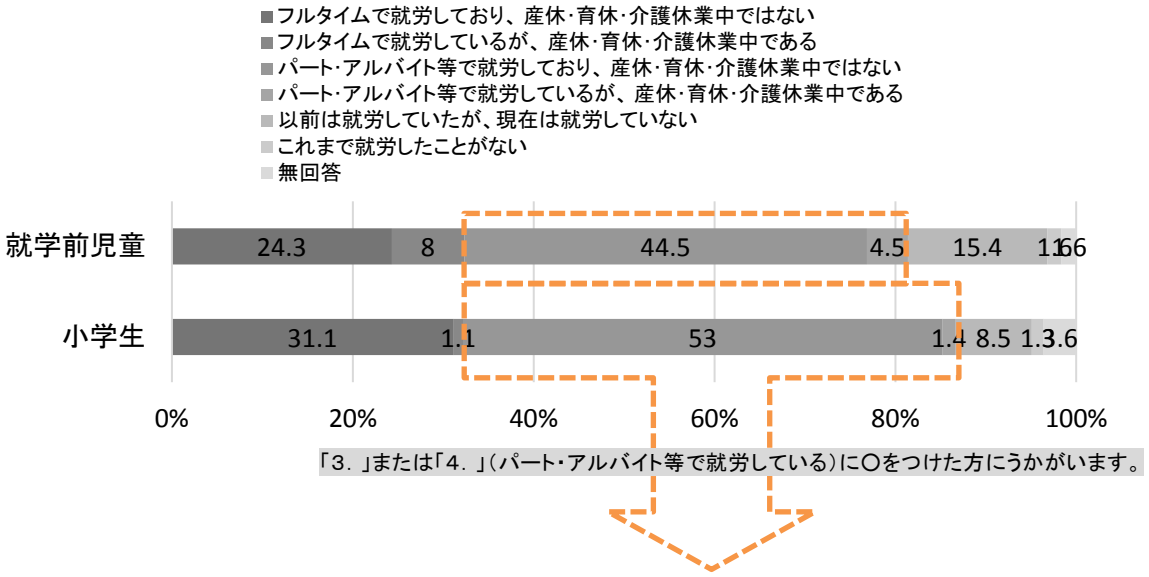
（１）母親の就労状況

母親の現在の就労状況は、就学前児童、小学生ともに、産休・育休・介護休業中ではなく、パート・アルバイト等で就労しているとの回答が約半数で、最も多い。

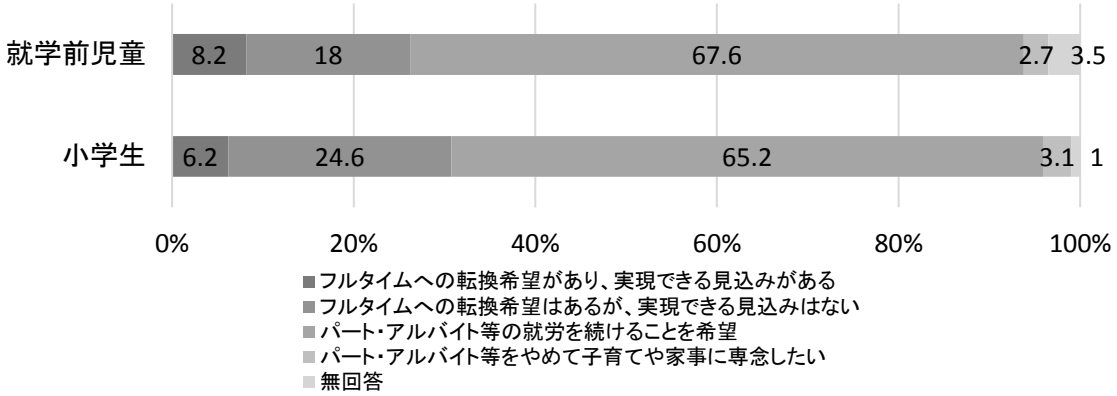
母親の就労状況について、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が、就学前児童の母親は 44.5%、小学生の母親は 53%となっています。フルタイムで働く母親は、小学生の方がやや多くなっています。また、前回調査よりも増加しています。

フルタイムへの転換希望については、就学前児童、小学生とも 65%以上が「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」していると回答しています。

問13(問8) 現在の就労状況(自営業、家族従事者を含む)について教えてください。(1つに○)



問13-2(問8-2) フルタイムへの転換希望はありますか。(1つに○)

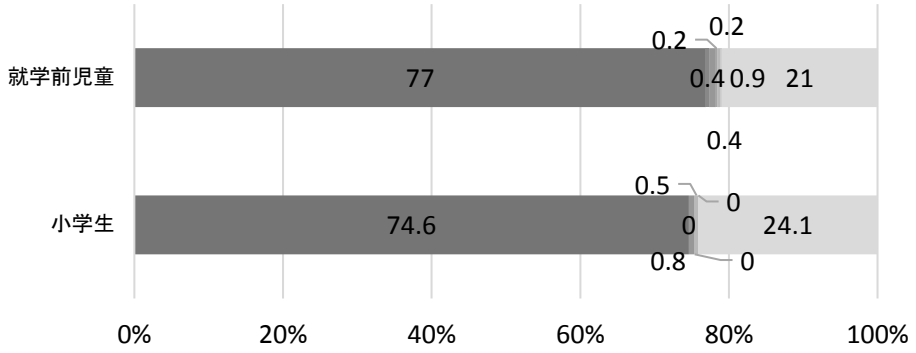


（２）父親の就労状況

父親の現在の就労状況は、就学前児童、小学生ともに、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」の回答が最も多い。

父親の就労状況について、75%前後が「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」と回答しています。

問14（問9） 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。
（1つに○）



	小学生	就学前児童
■フルタイムで就労しており、産休･育休･介護休業中ではない	74.6	77
■フルタイムで就労しているが、産休･育休･介護休業中である	0	0.4
■パート･アルバイト等で就労しており、産休･育休･介護休業中ではない	0.8	0.9
■パート･アルバイト等で就労しているが、産休･育休･介護休業中である	0	0.2
■以前は就労していたが、現在は就労していない	0.5	0.4
■これまで就労したことがない	0	0.2
■無回答	24.1	21

Ⅲ 子ども・子育て支援事業等の現状と今後のニーズ量

1　子ども・子育て支援事業の利用状況と利用希望

（１）平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

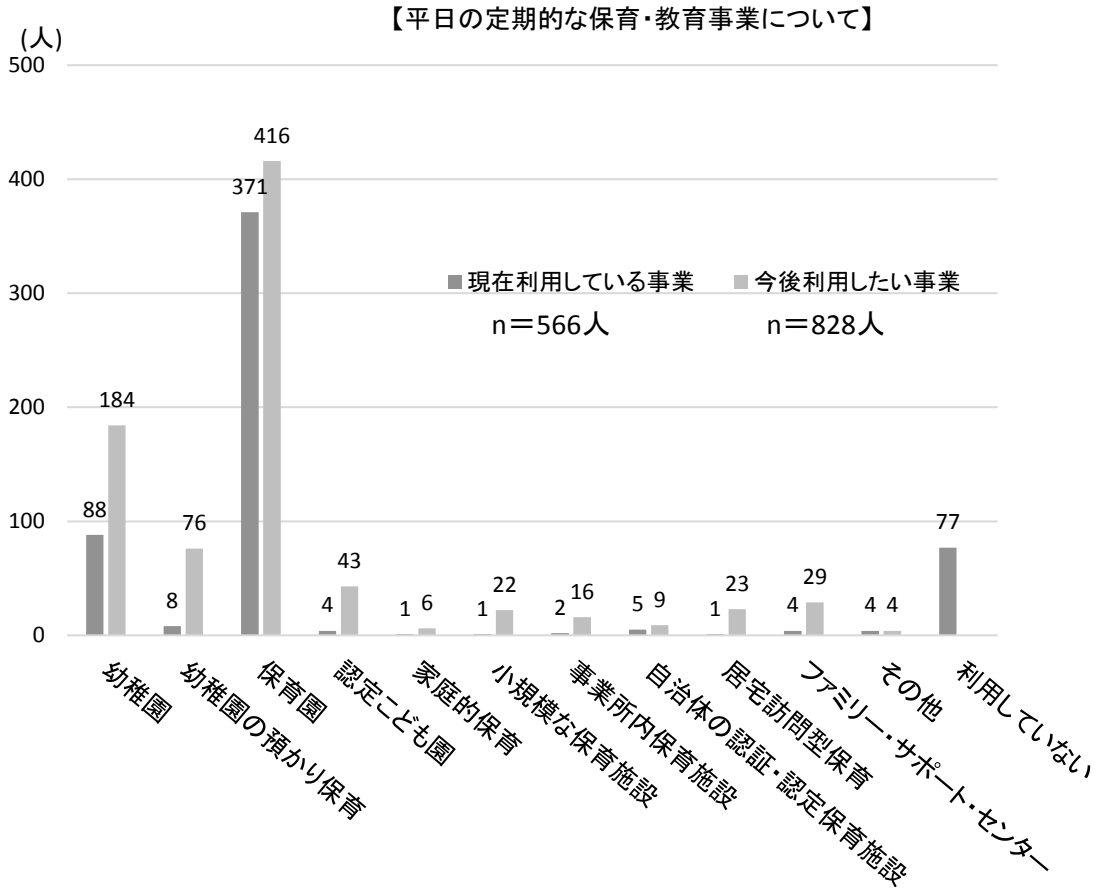
定期的に利用している教育・保育事業について、「保育園」が 65%と最も多く、また、利用したいと考えているのも「保育園」（50%）であった。

今後利用したい事業として保育園が 45 人、幼稚園は 96 人、増加しています。また幼稚園の預かり保育も 68 人増えています。このように定期的な教育・保育事業に対する増加が見込まれます。

定期的な教育・保育事業について、「利用している場所」は「山県市内」が 82%、「利用したい場所」は「山県市内」が 92.2%になっています。

問15　就学前のお子さんは現在、幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育事業」を利用されていますか。（すべてに○）

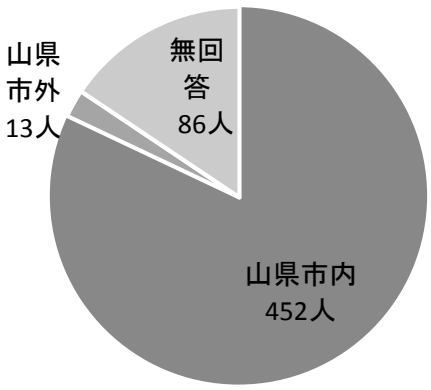
問16　現在、利用している、していないにかかわらず、就学前のお子さんの平日の教育・保育事業として「定期的」に利用したいと考える事業はどれですか。（すべてに○）



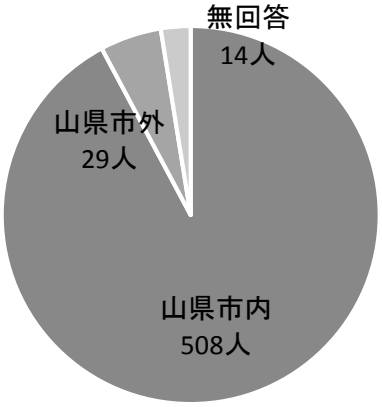
問15-2　現在、利用している教育・保育事業の実施場所はどこにありますか。（1つに○）

問16-1　利用したい教育・保育事業の場所はどこですか。（1つに○）

【利用している場所】



【利用したい場所】



２　地域の子ども・子育て支援事業の利用状況と利用希望

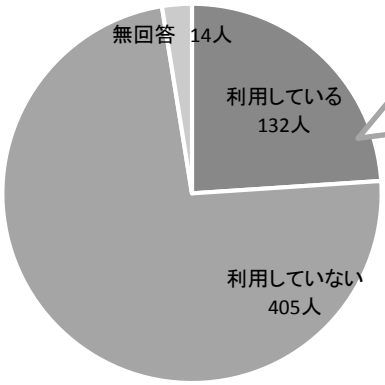
（1）地域子育て支援拠点事業の利用状況と利用希望

利用していない方が約 7 割以上あり、今後利用したい・利用を増やしたい方は４割であった。

地域子育て支援拠点事業を利用している方が 24%、利用していない方が 73.5%、となっています。また、今後の利用は 60%が新たに利用したり、増やしたいとは思っていません。

問17　就学前のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業(子育て支援センター(高富児童館内))を利用していますか。

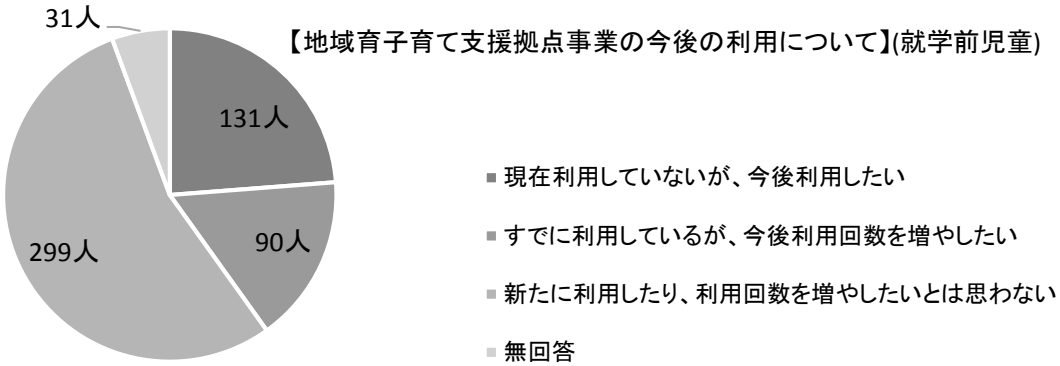
【現在の地域子育て支援拠点事業の利用状況】(就学前児童)



月 1～2 回程度	59.9%
週に 1 回程度	23.8%
週に 2～3 回程度	13.8%
週に 4 回以上	2.4%

問18　地域子育て支援拠点事業について今後どのようにしたいとお考えですか。（1つに○）

【地域育子育て支援拠点事業の今後の利用について】(就学前児童)



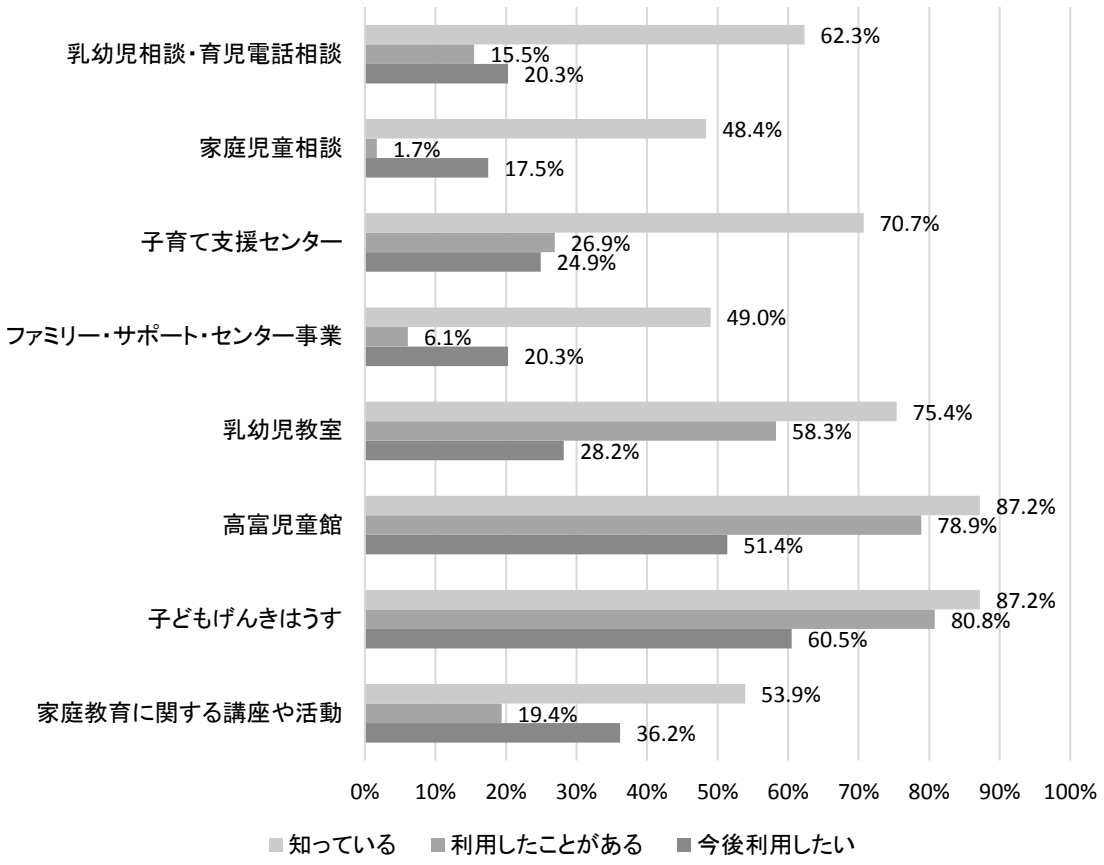
(2) 子ども･子育て支援事業の認知･利用状況と今後の利用意向

「高富児童館」「子どもげんきはうす」は、認知度も利用状況も 8 割前後と非常に高い。「家庭児童相談」「ファミリーサポートセンター事業」は、ほとんど利用されていないが、今後利用したい人は少なくない。

認知度が 50%以下のものは「家庭児童相談」「ファミリーサポートセンター事業」の 2 つでした。相談に関しては利用経験も少ない状況でした。直接子どもが関われる事業の利用が多くなっていることが明らかとなりました。

問19 次の事業で知っているものや利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものについて、それぞれ○をつけてください。(すべてに○)

【子育て支援事業について】



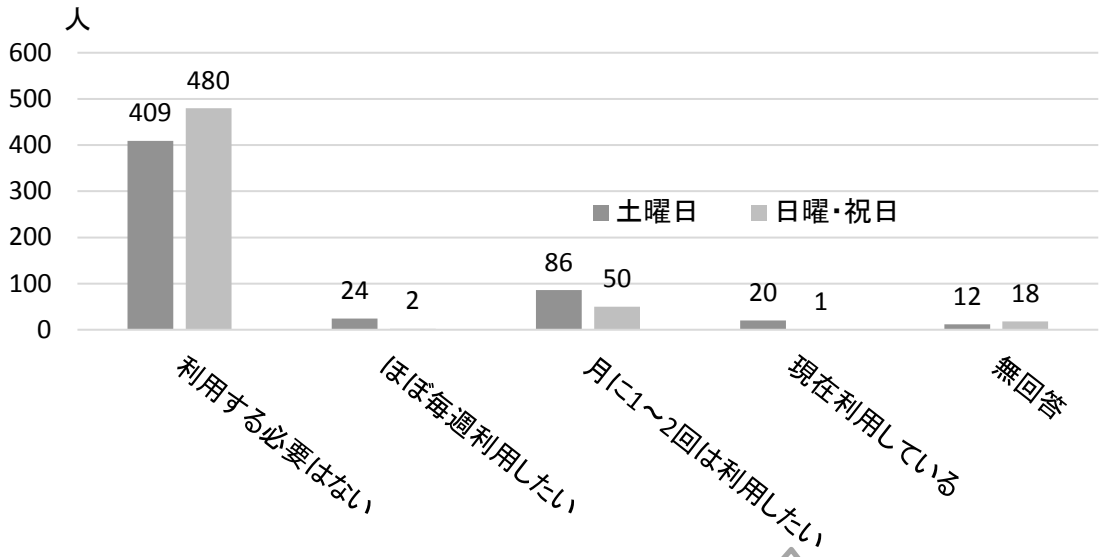
（3）休日の教育・保育事業の利用意向

「利用する必要はない」が土曜日は約 74.2%、日曜日は約 87.1%。

「利用する必要はない」と回答した方は、土曜日は約 7 割、日曜日・祝日では約 9 割近くとなっています。「月に 1～2 回は利用したい」は土曜日 15.6%、日曜日・祝日 9.1%で約 1 割前後となっています。

問20　就学前のお子さんについて、土曜日・休日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか。

【土曜日と日曜日・祝日の利用希望】



利用したい理由	%
月に数回仕事が入るため	51.9%
平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため	21.4%
親族の介護や手伝いが必要なため	1.3%
息抜きのため	16.2%
その他	9.1%

(4)　病児・病後児保育について

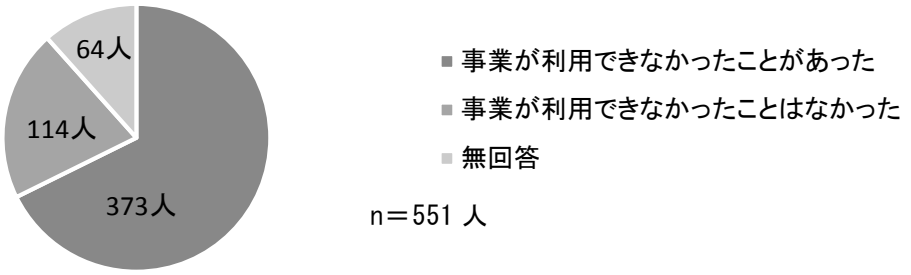
病児・病後児事業を利用したい人は、就学前児童 12%、小学生 6.9%と多くない。

病気やけがによって通常事業を利用できなかった、あるいは学校へ行けなかった人は、就学前児童 67.7%、小学生 65.4%と 7 割近くが欠席をしています。その時の対応は、どちらも「母親が休んだ」と 50%以上が答えています。病児・病後児事業を利用したい人は、就学前児童 12%、小学生 6.9%とあまり多くありません。

①就学前児童

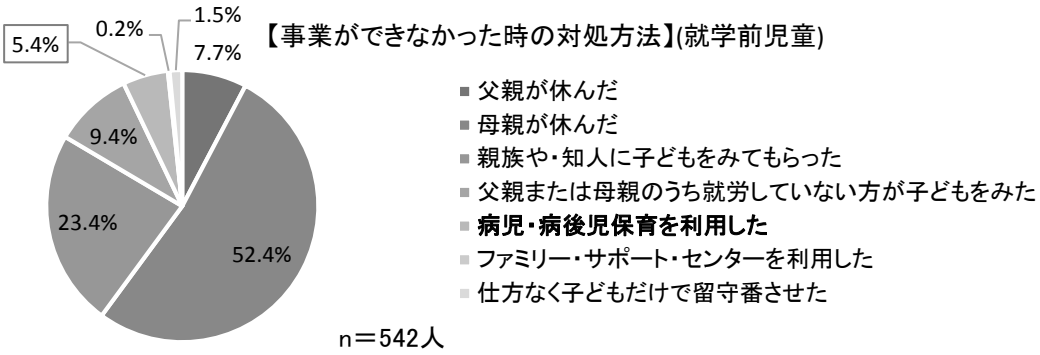
問22　この1年間に、就学前のお子さんが病気やけがで通常の事業（保育園や幼稚園など）が利用できなかったことはありますか。

【病気・けがによる通常事業の利用状況】(就学前児童)



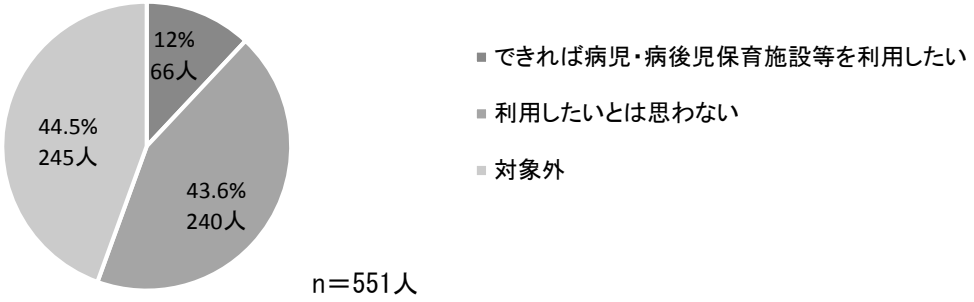
問22-1　就学前のお子さんが病気やけがでいつも利用している教育・保育事業が利用できなかった場合に、この1年間に行なった対処方法はどれになりますか。（すべてに〇）

【事業ができなかった時の対処方法】(就学前児童)



問22-2　問22-1で「父親が休んだ」「母親が休んだ」のいずれかに回答した方にうかがいます。
その際「できれば病児・病後児保育事業を利用したい」と思われましたか。（1つに〇）

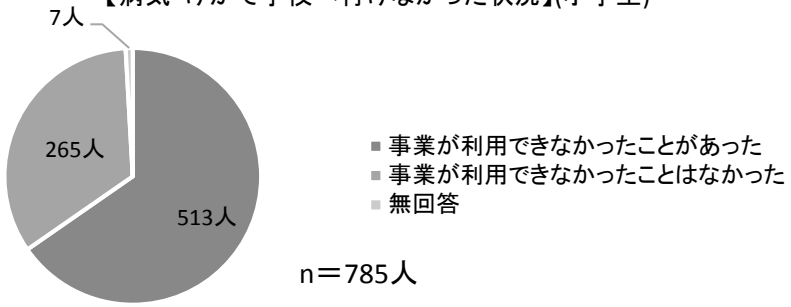
【病児・病後児保育施設の利用希望】(就学前児童)



②小学生

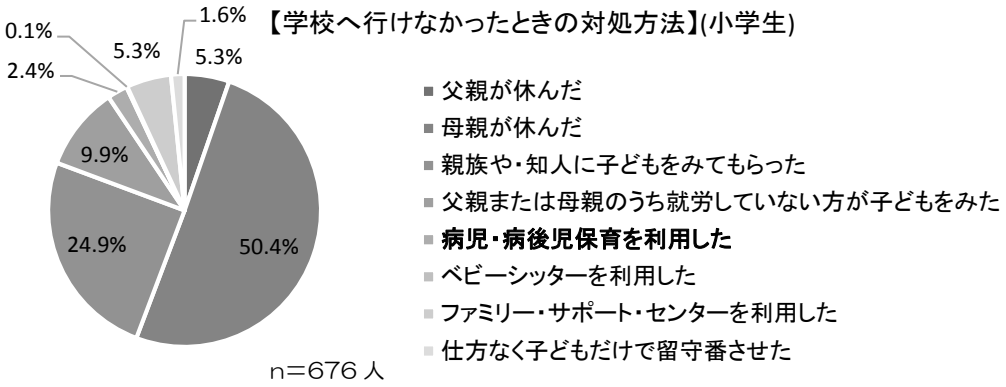
（問14） この1年間に、小学生のお子さんが病気やけがにより、平日、学校へ行けなかったことはありますか。
（1つに○）

【病気・けがで学校へ行けなかった状況】(小学生)



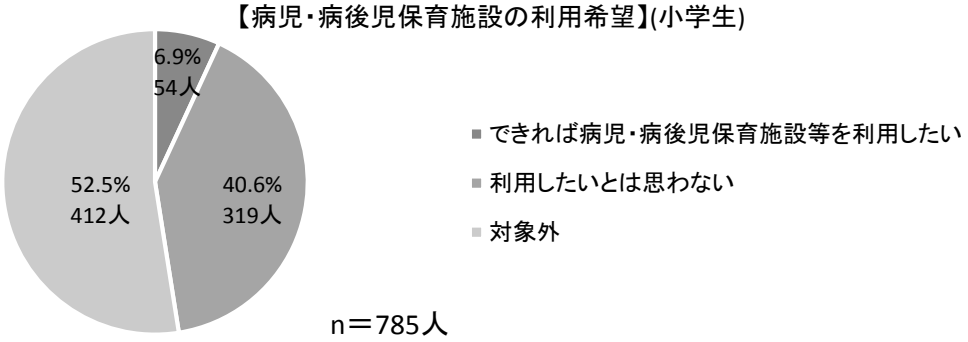
（問14-1） 小学生のお子さんが病気やけがにより、平日、学校へ行けなかった場合に、この1年間に行なった対処方法はどれになりますか。（すべてに○）
また、それぞれの日数(半日程度も1日と数える)も教えてください。

【学校へ行けなかったときの対処方法】(小学生)



（問14-2） 問14-1で「父親が休んだ」「母親が休んだ」のいずれかに回答した方にうかがいます。
その際「できれば病児・病後児保育事業を利用したい」と思われましたか。（1つに○））

【病児・病後児保育施設の利用希望】(小学生)



（5）放課後の過ごし方の意向

就学前児童の希望は、「自宅」が 3 割程度で最も多く、低学年において「放課後児童クラブの希望が 2 割ある。小学生の 4 割は、放課後を「自宅」で過ごしている。現状と希望はほぼ一致している。「放課後児童クラブ」は長期休暇において、低学年の希望が高い。

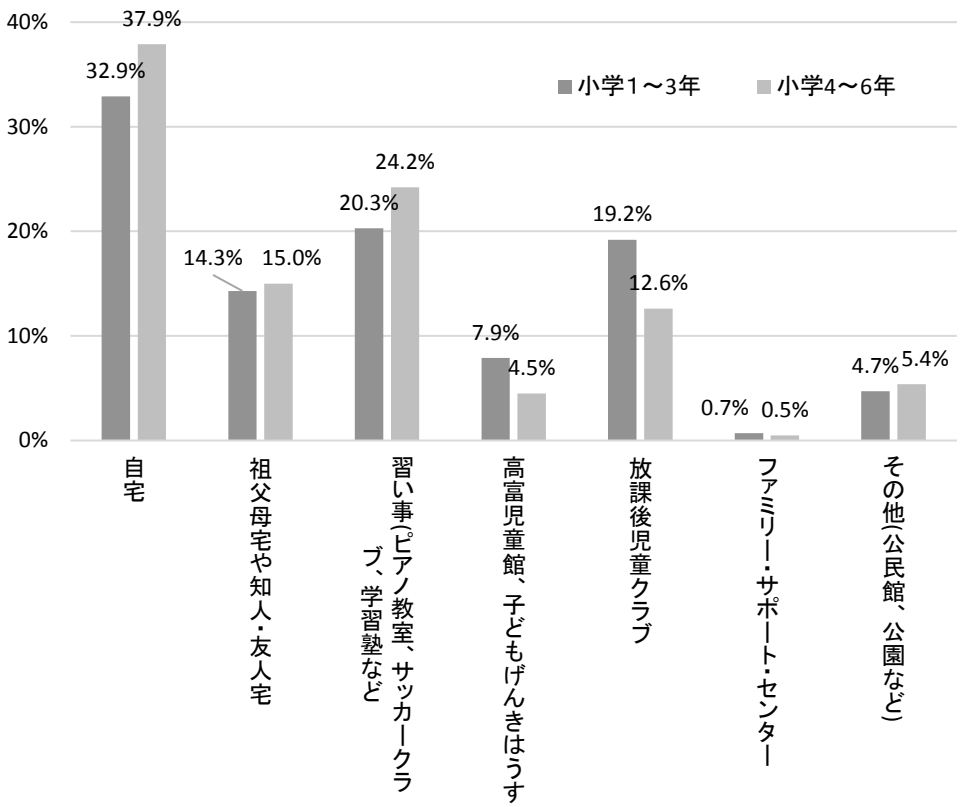
小学 1～3 年生と小学 4～6 年生の放課後の過ごし方はどちらも「自宅」が最も多く、次いで「習い事」となっています。祖父母や知人宅は、1～2 割程度存在しています。

「放課後児童クラブ」の利用は、小学 4～6 年生になると、ほとんど利用がなくなります。

26　就学前児童

問26　就学前のお子さんについて、小学校1～3年生のうちは、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（すべてに〇）

【放課後過ごさせたい場所】　（就学全児童）

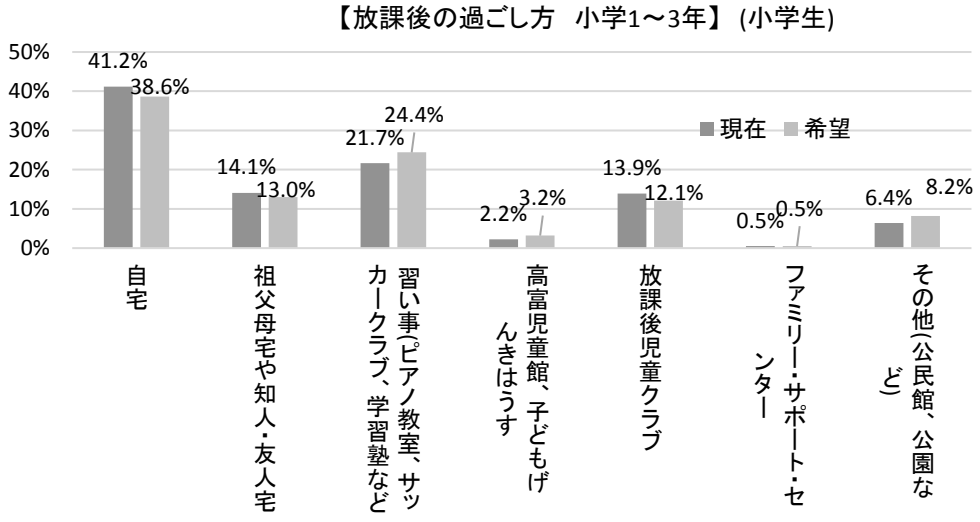


②小学生

小学生のお子さんが小学校 1～3 年生の方にうかがいます。

（問10） 放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごしていますか。（すべてに〇）

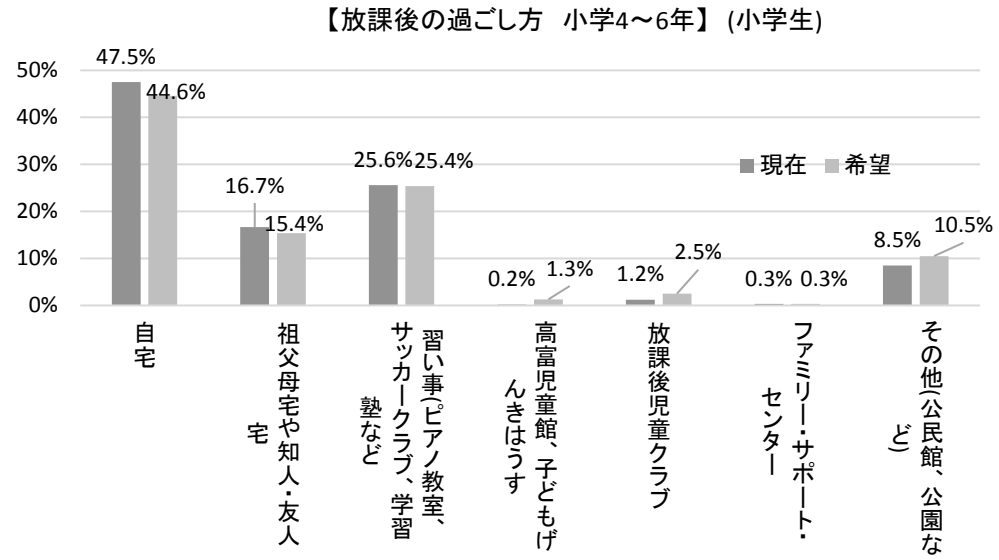
（問10-1） 小学校1～3年生の間は、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（すべてに〇）

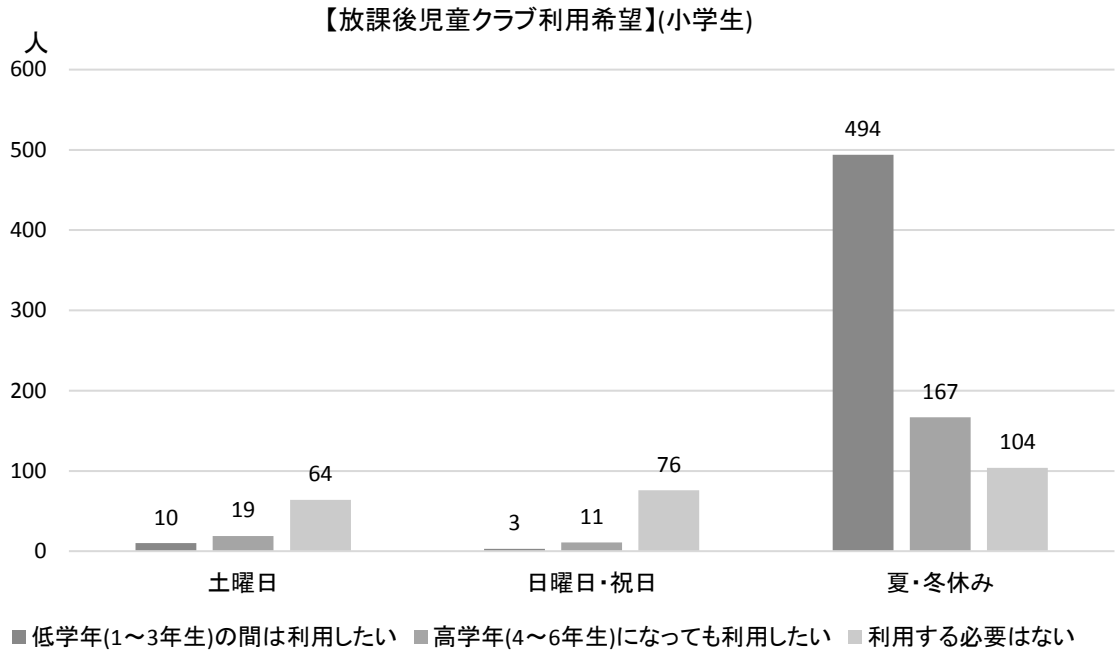


小学生のお子さんが小学校 4～6 年生の方にうかがいます。

（問11） 放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごしていますか。（すべてに〇）

（問11-1） 小学校4～6年生の間は、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（すべてに〇）



問12　問10-1または問11-1で「5. 放課後児童クラブ」に〇をつけた方にうかがいます。
小学生のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。

問13　小学生のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。（1つに〇）